

第21回 まちづくり委員会 事項書

平成28年10月27日(木) 午後7時～
小山田地区市民センター会議室

【時間配分の目安】

[5分]

1. 会長あいさつ

[10分]

2. 前回のふりかえりと骨子案の説明について

[30分]

3. グループ討議 —— 骨子案の検討

- 1) グループごとに、骨子案の文案が適切かどうかについて話し合います。
(例えば、「ヒメコウホネ」「つなげたい」などといったキーワードで
他に入れたほうが良いものがないかなどについて、話し合います。)

[30分]

4. 全体討議 —— 骨子案の検討・調整

- 1) 再度全体で、各グループの意見・提案を共有します。

- 2) 調整が必要な意見があれば、その場で協議します。

[5分]

5. 文化祭での掲示について

人権、防災、まちづくり

[5分]

6. その他(次回の日程、連絡事項など)

【今後の予定】 次回の役員会 平成28年11月 7日(月) 午前9時30分～
次回のまちづくり委員会 平成28年11月18日(金) 午後7時～

次回は金曜日の開催となりますのでご注意ください!

小山田地区まちづくり構想〔骨子案〕 (役員会案)

基本理念

大切にしたいこと

鈴鹿山脈の山裾から緩やかな傾斜でつながる丘陵地には茶畑が広がり、川が開いた谷筋では無数の稲穂が風に揺れます。丘陵地の縁にあたる斜面には木々が茂り、地下水路であるマンボからは絶え間なく水が流れています。四季を通じて桜、ヒメコウホネ、コスモスなどの花々が咲き、夏にはホタルが飛び交い、冬には雪をいただいた鈴鹿山脈を借景として、どこにいても絵になる、そんな自然豊かな農村地帯が私たちの住む小山田地区です。この地には、太古の昔から人びとの暮らしがあり、先人のたゆまぬ努力の上にこのような素晴らしい地区の姿があります。この先もずっと、時代を越えて小山田地区の素晴らしさを未来につなげたいという思いがあります。

昭和30年代になると四日市市に合併し、広い地区内に9つの町（内山、小山、鹿間、堂ヶ山、西山、美里、山田、六名、和無田）を持つ小山田地区が誕生しました。しかし、起伏に富んだ地形のために、これまで地区内の交流は案外少なく、9町がそれぞれでまちづくりを進めてきました。今後、徐々に人口が少なくなる社会の中^{なか}でも、9町の境を越えて小山田地区として1つにつながることで、今まで以上に地区を元気にしていきたいという思いがあります。

現代社会は、核家族化が進み、地域とのかかわりが少なく「無縁社会」と言われるなど、人と人とのつながりが希薄になっています。少子化、高齢化が今まで以上に進むなかでは、その傾向はより一層強まるおそれがあります。一方、小山田地区は人口が少ない反面、人と人の関係が強い地域であり、これからの時代においては、それを強みとしていくことができます。9町の横のつながりのみならず、親から子、孫へとつながる世代間の縦のつながりを大切にしていきたいという思いがあります。

この「小山田地区まちづくり構想」をきっかけに、こうした「つながり」を大切にしてお山田のまちづくりを進めていくため、次のとおり基本理念を定めます。

**世代・時代・地域を越えて
「つながろう・つなげよう小山田」**

将来像

小山田のめざす姿

基本理念の「つながる、つなげる」という思いを大切にしながら、子や孫の代まで、将来にわたって元気で住み続けられる小山田地区であることを願い、次の将来像を掲げます。

子孫に残す 元気で住み続けられるまち 小山田

基本目標

小山田が向かうべき大きな方向

この将来像を実現するため、大きな4つの目標を掲げます。これらの目標に向けて、小山田地区にかかわるすべての人や組織が一丸となって取り組みを進めていきます。

○人と人とのつながりで、だれもが安全・安心に暮らせるまち

世代を越えて人と人がつながり、みんなで見守り、助け合うことによって、住民が安全に安心して暮らせる小山田地区をめざします。

○活気があり、快適に暮らせるまち

区内とともに地区外との移動がしやすく、またみんなが集える生活拠点があることで、若者をはじめ住民が便利で快適に暮らせる、活気のある小山田地区をめざします。

○自然や農業を通じてまとまり、つながるまち

地区の特徴である豊かな自然や農業をみんなで守り、将来に引き継いでいくことを通じて、地区のまとまりやつながりを生み出せる小山田地区をめざします。

○ふるさと愛を育み、発信するまち

地区の特徴を知り、郷土愛を育みながら、住民どうしが交流し、地区の文化を守ることで、素晴らしさを発信できる小山田地区をめざします。

小山田地区まちづくり構想 体系図（案）

基本理念 [大切にしたいこと]	将来像 [小山田のめざす姿]	基本目標 (小山田が向かうべき大きな方向)	
世代・時代・地域を越えて「つながろう・つなげよう小山田」	子孫に残す 元気で住み続けられるまち 小山田	人と人とのつながりで、 だれもが安全・安心に暮らせるまち	高齢者が憩い、
		活気があり、快適に暮らせるまち	子どもが見守ら
		自然や農業を通じてまとまり、 つながるまち	災害に強く、犯
		ふるさと愛を育み、発信するまち	地区内外が移動
		若者などが気軽	
地区内に拠点が			
自然と美しい景			
地区全体で取り			
地区内外の人が			
地域の文化、伝			
住民どうしが仲			
小山田地区の良			

現状と
課題

取組方向 (小山田が取り組むべき方向)	検討中の取組内容 (現段階での具体的アイデア)
助け合えるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 高齢者の居場所づくり ▶ 助け合い活動、困りごと支援 ▶ 医療・福祉施設との連携強化 など
れ、安心して子育てできるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 認定こども園の誘致、学童の充実 ▶ 地域ぐるみで教育、見守り ▶ 若者の交流機会づくり など
罪や事故に遭わないまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 自然災害予防の対策 ▶ 犯罪防止のパトロール、登下校の安全対策 ▶ 通学路、狭あい道路等の整備 など
しやすいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 南北方面の主要道の整備検討 ▶ 高速バス等の新たな交通手段の検討 ▶ その他の交通手段の活用 など
に住める（戻ってこられる）まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 若年世帯の居住促進環境の創出 ▶ 空き家、空き農地の活用による若者定住 ▶ 文化的な活動の機会づくり など
でき、集えるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 各種施設の集約 ▶ 公共施設、商業施設の誘致 ▶ スポーツ施設や公園等の誘致 など
親を守るまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 自然資源や景観の保護、活用 ▶ 自然を活用したイベント等の実施 ▶ 荒れ地の整備、不法投棄対策 など
組む農業のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 農業にかかる組織の一元化 ▶ 定年後に農業ができるしくみづくり ▶ 情報共有のしくみづくり など
新鮮な農産物を手に入れられるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 産直（朝市）の場づくり ▶ 産直のための組織づくり ▶ 特産品づくり など
流行事や農業が引き継がれるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 農業体験、農業イベントの実施 ▶ 地区全体での祭り、行事の実施 ▶ 後継者の育成 など
良く交流するまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地区全体での文化祭、運動会の開催 ▶ 外国人住民との交流 など
はところを知り、発信するまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地区の歴史、史跡などのマップづくり ▶ 新たなシンボルづくり など